

博物館入口に設置しているカメラ付き巣箱は、これまでエゾモモンガやコムクドリなどが使用してきましたが、今年はコムクドリが営巣しています。コムクドリは越冬地である東南アジアから夏鳥として日本に飛来し、本州中部以北で繁殖します。繁殖は樹洞、キツツキの古巣、巣箱などで行います。人里に近い林などで繁殖するため、なじみのある鳥です。この巣箱でコムクドリが営巣するのは2000年に続いて2回目です。今も子育ての真っ最中ですが、今回は巣作りから現在までの様子を速報します。

5月14日、巣箱内に巣材が持ち込まれているのに気づきました。コムクドリの巣は、カラ類が造る丹精な巣とは違い、とても粗雑な造りなので、モニターでもコムクドリの巣であることはすぐわかります。巣材は草本の茎や葉、木の葉などですが、無造作に詰め込まれ、卵を産み抱卵する産座部分も抱卵しているうちにだんだんと形になっていくといった感じです。

最初の産卵はそれから10日ほど経った5月24日のことでした。コムクドリは毎日1卵ずつ産んでいきます。朝モニターの電源を入れると毎日1個ずつ卵が増えていきます。卵を産むのは朝方ようです。最後の卵を産むまでは本格的に抱卵することはありません。産卵数は6個で前回も同数でした。文献によると、コムクドリの産卵数は3～7で、産卵時期が遅くなると、産卵数が減少するようです。遅く産むと、たくさん産んでも育てきれないからだと言われています。

6卵目を産んだ5月29日、抱卵を開始しました。抱卵はオスもしますが、夜間はメスが抱卵していました。抱卵を開始してから12日目の6月10日、少なくとも4羽の雛と未孵化卵1卵を確認することができました。カメラの死角で、もう1卵については確認できませんでしたが、13日には6羽の雛が確認できました。全ての卵を産むまで抱卵しないのは、孵化時期を揃えるためですが、産卵数が多い場合、最後の方に産んだ卵は1.2日遅れて孵ることがあるようです。前回2000年は6卵のうち4卵は同時に孵化しましたが、残りの2卵は結局孵化しませんでした。

雛の子育てはオスとメスが協力して行います。観察で午前中（特に朝方）の方が頻繁に餌運びをしています。6月13日の観察では8:30～9:30の1時間に12回（オス、メス6回ずつ）、14:00～15:00は7回（オス4回、メス3回）でした。給餌回数は雛の成長とともに増加していきます。餌を与えるとすぐ出かける時もあるれば、糞を運び出したり、しばらく雛を抱くこともあります。メスはオスに比べ、巣に滞在する時間が長いように感じますが、もうしばらく観察する必要があります。雛が幼い間は、日没10～15分前には帰巢し、雛の保温のため夜間抱雛します。これはもっぱらメスがやります。オスは巣の外でまわりを監視しながら眠るのでしょうか。

現在餌は昆虫類ばかりですが、雛が大きくなると、エゾヤマザクラの果実など植物質のものも運ぶようになります。ちょうど6月末から7月初め、博物館周辺のエゾヤマザクラはたくさんの果実をつけます。コムクドリが博物館周辺を好んで営巣する理由の一つかもしれません。巣立った後の巣箱を掃除すると、巣の中からたくさんのエゾヤマザクラの種子が出てきます。

現在も（6/15）も、子育ては進行中です。チッチッという雛の声も次第にしたものとなり、親は餌運びに大忙しです。2000年の観察では、孵化後16日目に2羽、17日目に残りの2羽が巣箱を後にしました。これを今年にあてはめると6月26、27日頃巣立ちとなります。子育ての様子は記念館ロビーのテレビモニターで生中継しています。巣立ちを迎える前にぜひ一度可愛い雛たちの様子を見に来て下さい。

（博物館HPで雛たちの成鳥の様子を逐一紹介しています）

参考文献：小池重人.1988.コムクドリの繁殖生態

Strix.vol7

2000年と2003年の比較

観察年	2000年	2003年
産卵数	6	6
第1卵産卵日	5月30日	5月24日
抱卵開始	6月6日	5月29日
孵化日	6月10日	6月18日
巣立ち	7月4.5日	
抱卵日数	12～13日	12～13日
孵化数	4/6	6/6
開眼	孵化後10日目	
巣箱から出る	孵化後16～17日	



糞を運び出すメス



オス



6月13日の雛たち

～事務局より～

今回は、5/23に発売しましたしれとこライブラリー・知床の魚類の案内を同封しました。一般書店のほか、博物館窓口でも販売しています。是非、お買い求め下さい。

発行 斜里町立知床博物館協力会 2003.6.15

099-4113

北海道斜里郡斜里町本町49 斜里町立知床博物館内

TEL:01522-3-1256/FAX: 3-1257

<http://www5.ocn.ne.jp/~museumsp/>